

鳥取県経済同友会東部地区 12月例会報告

1 日 時 令和6年12月16日(月) 18:30～

2 場 所 ホテルニューオータニ鳥取「鳳凰の間」

3 講 演 「鳥取市の交通政策について」

～生活交通の維持・確保に向けて～

講師 鳥取市交通政策課

課長補佐 森本英幸 氏

4 出席者 会員19名

5 講演要旨

鳥取市は生活交通の確保のための主な取組として、①民間バス路線維持への支援、②バス廃止路線における乗合タクシー事業、③市有償バスの運行、④自家用有償運送事業への支援、⑤100円循環バスくる梨運行事業を行っている。

また、新たな交通手段確保の取組として、①AIオンデマンド乗合交通「とりモビ」の実証運行事業、②自動運転バス実証運行事業を行っている。

さらに、利用促進、利便性の向上のため、①ICOCAの導入などのキャッシュレス化の推進、②ノーマイカー運動、バス電子チケットなどでバス利用を呼び掛けるノルデ運動、③複数の交通手段を最適に組み合わせる検索・予約・決済などを一括で行うサービスであるMa a Sの促進に取り組んでいる。

公共交通を取り巻く環境は厳しく、自家用車の普及と人口減少により、公共交通利用者が減少し、さらに公共交通の縮小が利便性の低下につながり、公共交通離れの要因となっている。バス事業者においては、採算性の悪化と運転手不足により、バス路線の減便・廃止となり、公共交通の空白地が発生している。

また、生活交通確保のための鳥取市が令和2年に策定した「鳥取市生活交通創生ビジョン」等を詳しく説明していただいた。

会員から「とりモビをアプリで呼んで、短時間でバスが来るのであれば、タクシーより便利になるのではないか。」「自動運転バスは、どれくらいの頻度で運行しようとしているのか。」「人流と物流を別々に検討するのではなく、一緒に検討すべきではないか。」「自動運転バスは、24時間運行すると便利になる。」等の提案や質問が出され、講師の森本氏は、とりモビの事業主体である「とっとり共創型交通協議会」での協議の経過、自動運転バスの技術的な課題や経費的課題等、提案や質問に関連しながら、丁寧にお答えいただいた。



【講演する森本英幸氏】